

国土交通省説明資料

平成28年6月6日

国土交通省 総合政策局

北極海航路航行実績(トランジット航行)

・ 2015年シーズンの北極海航路のトランジット航行数は27隻※¹で、昨年より減少。

※¹ ロスアトムフロート社（砕氷支援を行うロシア国営会社）の統計情報

北極海航路貨物輸送実績 (2010年～2015年)

[トランジット航行]

北極海を東西にわたり航行するもの。
北極海内の複数の海域をまたぐ航行を
指し、ロシア国内間輸送を含む。
(ロスアトムフロート社の説明による)

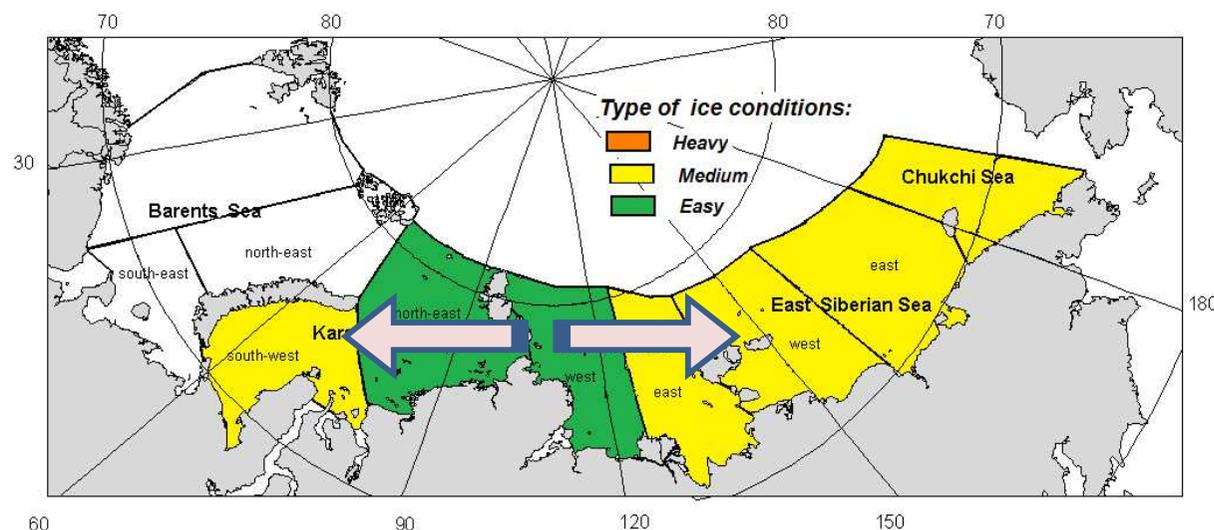
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年※ ⁵
貨物量	111,000	820,789	1,261,545	1,355,897	751,710	292,084
単位※ ^{2,3}	DWT	DWT	DWT	DWT	GT	GT
航行隻数	4 (うち、2隻は バラスト航行※ ⁴)	34 (うち、10隻は バラスト航行)	46 (うち、13隻は バラスト航行)	71 (うち、22隻は バラスト航行)	61 (うち、34隻は バラスト航行)	27

※² DWT : (Dead Weight Tonnage) (載貨重量トン数) 船舶に積載できる貨物の重量を表す。

※³ GT : (Gross Tonnage) (総トン数) 船舶の全体の容積を表す。

※⁴ バラスト航行：貨物を積載しない状態での航行を指す。

※⁵ 2015年実績値：ロスアトムフロート社が砕氷支援を行った航行に限るため、単独でトランジット航行した実績等は含まない。



北極海の海域分割図

我が国の北極海航路の利用の現状について【前回資料再掲】

- 北極海航路の利用に関連して日本に寄港した船舶等
- ・2011年に、日本船社が所有する船舶が鉄鉱石をムルマンスクから北極海経由で中国に輸送。
 - ・2012年は1件、2013年は3件、LNG等の日本への輸送実績が確認されている。
 - ・2015年は、アイスランドからの鯨肉の輸送の他、インドネシアからサベッタ港(ロシア)へ向かうLNG基地関連資材を輸送する船舶が、補給のために寄港した実績が確認されている。

日本寄港日	2012年 12月5日	2013年 8月17日	2013年 9月	2013年 10月11日	2015年 8月30日	2015年 9月1日	2015年 9月13日
仕向け先	九州電力	旭化成ケミカルズ、 三菱化学	不明	東京電力	三坂商事	ヤマルLNG (日揮)	ヤマルLNG (日揮)
輸送貨物	LNG	ナフサ	石油製品	LNG	鯨肉	プラントモジュール	プラントモジュール
運送業者	Dynagas Limited	Tsakos Columbia Shipmanagement	Sovcomflot	Dynagas Limited	Aquaship	ZPMC-Red Box	ZPMC-Red Box
船名	OB RIVER	Propontis	SCF YENISEI	Arctic Aurora	Winter Bay	Red Zed II	Red Zed I
アイスクラス	IA(Arc4)	Arc4	Arc4	Arc4	DNV 1C	Arc7,PC3	Arc7,PC3
DWT (載貨重量トン)	84,682 t	117,055 t	47,187 t	73,920 t	2,050 t	52,039 t	51,969t
建造年	2007年	2006年	2007年	2013年	1986年	2015年	2015年
起点	ハンメルフェスト (ノルウェー)	ロッテルダム (オランダ)	ムルマンスク (ロシア)	ハンメルフェスト (ノルウェー)	ハフナルフィヨルスヴル (アイスランド)	バタム (インドネシア)	バタム (インドネシア)
終点	北九州市 (福岡県)	水島港 (岡山県)	岩国港・ 名古屋港・京浜港	東電富津港 (千葉県)	大阪港 (大阪府)	サベッタ港 (ロシア)	サベッタ港 (ロシア)
備考					貨物1,800t	補給のため 横浜港に寄港	補給のため 横浜港に寄港

北極海航路における国際間輸送実績

- ・2015年の北極海航路の国際間輸送実績※は、2014年に続き依然低調。
- ・アジアからヤマル(ロシア)へLNG基地関連資材を輸送する船舶が8隻確認され、来年度も引き続きLNG基地関連資材の輸送が実施される見込み。
- ・資源・エネルギー関係以外の貨物輸送も実施された。

※ 国際間輸送：北極海航路を横断し、太平洋側と大西洋側の港湾間で実施された貨物輸送（北極海航路沿いの港湾との輸送実績は含まない）。

2013年（18隻）

- ・ 日本向け 3隻
- ・ 中国向け 3隻
- ・ 韓国向け 3隻
- ・ その他 9隻

輸送貨物は鉄鉱石、ナフサ、ガスコンデンサート、LNG、ジェット燃料など

2014年（1隻）

- ・ バンクーバー港（カナダ）からポリ港（フィンランド）間の輸送

輸送貨物は石炭

その他（貨物輸送以外）

- ・ 旅客船 1隻

2015年（5隻）

- ・ 日本向け 1隻（鯨肉）
- ・ 中国欧州間 2隻（往復、風力発電関連製品等）
（※Yong Sheng往復）
- ・ 中国欧州間 1隻（風力発電関連製品）
- ・ 米国ロシア間 1隻

その他（貨物輸送以外）

- ・ クルーズ船、ヨット 各1隻
- ・ 作業船 2隻

- ・ アジアからヤマルLNG（サベッタ港）へのプラントモジュール等輸送後、欧州港湾へ寄港した貨物船 8隻
（荷主は何れも日系企業）

関係国等の動向

(関係者からの聞き取り情報による)

ロシアの動向

- カムチャツカ発展公社は、2016年夏期に原子力多目的貨物船(Sevmorput)によるムルマンスク～ペドロパブロフスク・カムチャツキー間の試験運航を計画。

※Sevmorputは1988～2007年まで運航されたのち、貨物需要の低下から一度は不要となったものの、修理等を経て2015年に試験航海を実施。運航は、ロスアトムフロート社が行う。



Sevmorputの諸元			
船体長	260m	船幅	32.2m
喫水	11.8m	喫水(氷海航行)	10.65m
DWT	33,980t	船倉	20.6m × 19.05m

- ウラジオストクの水産関連企業がムルマンスクへ冷凍水産品を2回輸送する予定。

中国の動向

- 中国海運企業(COSCO)は2015年に引き続き、2016年も多目的貨物船(Yong Sheng)による試験運航を計画。2016年は3航行(東航:2、西航:1)の見込み。

国際海事機関(IMO)の動向

- 2017年1月極海コード(Polar Code)の発効(ただし、船員関係は推奨要件)
- 2016年4月の第69回海洋環境保護委員会(MEPC69)において北極海における重質油の使用に関する提案がなされた。
 - ※FOEI、WWF、Pacific Environment、CSCの環境保護団体が提案。
 - ※なお、極海コードでは、南極海における重質油の使用又は輸送の規制(MARPOL条約付属書 I 第43規則)を、北極海において推奨(非義務)要件としている。

【参考】

フィンランドの動向

- Arctia社が中心となり、2017年夏に北極海に研究のための航海を行うプロジェクト「Arctic 100 Expedition」を予定しており、共同事業者を募集中(※2016年8月31日)。